MAGAZINE FOR WORLD MOVIE & TV FANS APR. '83
スクリーン
SCREEN
3大付録
① 春のアニメ映画ぎっしりブック
② ジャッキー・チェンの大型ポスター
③ イングリッド・バーグマン特選グラフ
映画でおなじみの
素晴らしき世界の旅ロサンジェルス
「少林寺2」カラー速報&ストーリー公開
リー・リン・チェイのクンフー・ドキュメントと
北京にいる一家訪問独占レポート
とっておきグラフ
トップスターのデビュー時代
現地取材
水野晴郎のアカデミー賞ずばり予想！
グラフ解剖
スピールバーグ監督の魅力の秘密
第40回ゴールデングローブ賞発表
これだけ知れば面白さ倍増
"少林寺映画"大特集
2大カラースペシャル
だんぜん人気のE・T
の主役3人とE・Tちゃん
先取りグラフ
もうすぐ見られるわっくわく新作
ソフィー・マルソー2回目の来日BIG特報
BROOKE SHIELDS
スクリーン4月号
昭和58年4月1日発行
毎月1回1日発行
第38巻第6号通巻528号
昭和56年11月24日国鉄首都特別扱承認雑誌第595号

# ダーク・クリスタル

# THE DARK CRYSTAL

Produced by ............... Jim Henson
Gary Kurtz
Directed by ............... Jim Henson
Frank Oz
Screenplay by ........... David Odell
Director of photography
........................... Oswald Morris
Music by .................. Trevor Jones

公開作品紹介
英＝米映画

## 解説

時間と空間を超越した別世界を舞台に、暗黒の世に平和をとり戻すため、失われた水晶のカケラを求めて旅に出た少年の冒険と愛を描くファンタジー。新しい映像技術〝ロボットロニクス〟を駆使し、画面に登場するのはすべて空想上の動物という画期的な作品だ。

TV「マペット・ショー」などのマペットの創作者**ジム・ヘンスン**と、「スター・ウォーズ／帝国の逆襲」でヨーダの声と操作を受け持った**フランク・オズ**が共同で監督。脚本は**デービッド・オーデル**で、撮影には「ウィズ」の**オズワルド・モリス**があたり、音楽を「エクスカリバー」の**トレバー・ジョーンズ**が担当。特殊視覚効果は「スーパーマンⅡ」の**ロイ・フィールド**、特撮顧問は「タイタンの戦い」の**ブライアン・スミシーズ**。「スター・ウォーズ」の**ゲーリー・カーツ**が、ヘンスンと共に製作にあたっている。

## 見どころ

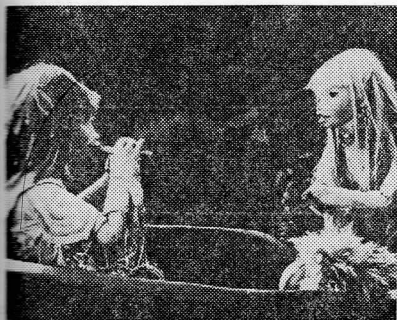
すべて架空の動植物でありながら、まるで実在の生物のような〝演技〟を見せるキャラクターたち。これは〝ロボットロニクス〟と名づけられた新しいシステムの成果で、一つのキャラクターを人間六人とコンピューターによって操作するもの。イギリスの有名な画家**ブライアン・フルード**の協力によって生み出された幻想的な異世界と、この新技術のドッキングが、まったく新しい映像の冒険として素晴らしい画面を見せてくれる。

〈原題『黒水晶』一九八二年度作品。一時間三三分。ユニヴァーサル映画＝C－C配給〉（ストーリーは214ページ）

# 第11回アボリアズ映画祭
# グランプリの「ダーク・クリスタル」に興奮

小松沢陽一
*Yōichi Komatsuzawa*

早いもので，真冬のアルプス山中で催される“雲の上のフェスティバル”，アボリアズ国際ファンタスティック映画祭は今年で11回目だ。開催場所のユニークさに加えて，映画に芸術性ではなく，何よりもイマジネーションの面白さと若さを求めた新しい価値感によるこの映画祭は，第1回グランプリ受賞の「激突！」のスピールバーグ監督から，世界に若いスター監督達を次々に生み出して来た。

そうした世界の新しいスター監督達は，次は育てる側に回って“ファンタスティック映画”の新しい仲間を増やすシステムが定着しているが，それに従って今年の審査委員長は**ジョージ・ミラー**監督だった。彼は80年に「マッドマックス」で審査員特別賞，82年に「マッドマックス2」でグランプリを受賞している。他の審査員メンバーも相変らず豪華で，「人類創世」の**ジャン・ジャック・アノー**監督，「最前線物語」の**サミュエル・フラー**監督，「大統領の陰謀」の**アラン・J・パクラ**監督，女優の**マルテ・ケラー**，**イングリッド・チューリン**等14名だった。

「**ダーク・クリスタル**」

今年の会期は1月15日から23日までで，9日間に正式出品作が19本，コンクール外の特別上映作品が8本紹介された。他にファンタスティックの古典の回顧上映や，ビデオ・カセット映画によるファンタスティック・フェスティバルも同時に催された。

この映画祭のグランプリ受賞作は，いつもその年世界中で大ヒットして必ず話題になるが，今年その栄光に満場一致で輝いたのは，「スター・ウォーズ」のプロデューサー，**ゲーリー・カーツ**が製作し，“マペット・ショー”で有名な**ジム・ヘンスン**が監督した「**ダーク・クリスタル**」（米）だった。最初は人形アニメーションだからどうせ子供向け映画だろう位に思って見に行ったら，想像を絶したかつて映画で体験した事のない，新しい華麗なファンタジーの世界に，すっかり酔い興奮させられてしまった。幸いこの映画は日本でも3月に公開だそうだがゲーリー・カーツとヘンスン監督の二人と食事しながら，「ダーク・クリスタル」撮影の秘話を直接聞けたのも，今年の僕のアボリアズの最大の収穫だった。

審査員特別賞はやはり日本での公開が決まっている「**バトルトラック**」（ニュージーランド）だ。この映画の監督のハーリー・コクリスは，「スター・ウォーズ帝国の逆襲」の第2班監督だった人だが，賞こそのがしたが僕が大好きな「**センダー**」（米）と言う映画のロジャー・クリスチャンも，「SW」の美術監督と「SW／ジェダイの復讐」の第2班監督をしており，改めて「SW」の偉大さを感じた。

審査員特別賞のもう1本は，フランスの24歳の若手監督の処女作「**最後の戦い**」だ。短期間で大きくなって来たアボリアズ映画祭だが，実は最大の悩みがいつも一つあった。かんじんの開催国のフランス製ファンタスティック映画が，ほとんど出品された事がなかったのだ。それが今年一気に4本も出品されて，そのすべてがかなりの秀作だった。前記の他アニー・デュプレーとジャン・クロード・ブリアリー共演の「**島の中に悪魔がいる**」（フランシス・ルロワ監督）もサスペンス映画賞を受賞し，特別上映作品として映画祭のフィナーレを飾った「**危険の報酬**」（イーブ・ボワッセ監督）も，コンクールに入ってれば，当然賞を受けた力を持った作品だった。このアボリアズ映画祭が，いつも知的内面的世界を描きすぎて，世界に通用しなくなっていたフランス映画を，挑発し続けて来た成果がようやく現われて来た訳だ。主催者達はどんなにうれしい事だろう。

他の受賞作では，シドニー・J・フューリー監督の「**エンティティー**」（米）で，**バーバラ・ハーシー**が主演女優賞を，批評家賞は又もや「最後の戦い」に与えられて，フランスの批評家達はけっこうナショナリストだなと思った。

# ダーク・クリスタル

## The Dark Crystal

そこは、ダーク・クリスタルと呼ばれる水晶の輝く緑豊かな土地であった。だが水晶が割れ、そのカケラがいずこへか消えると世界は善と悪とに分かれ、数千年もの間、悪のスケクシー族と善のゲルフリン族との争いが続いた。その結果、スケクシー族が世を支配し、黒水晶のある巨城に住みついた。

ある日、ゲルフリン族の生き残りジェンは、育ての親のウール族の長老にある使命を託された。水晶のかけらを探し出し、三つの太陽が一つに重なる前に元の水晶に戻せば、ふたたび平和が戻ってくるというのだ。ジェンは旅立った。まずかけらを手に入れるために。

一方、スケクシー族内では皇帝が死に権力争いが起こり、その結果戦士ガーシムの長が王座についた。権力争いに負けたチェンバレンは身ぐるみはがされ追放された。

ジェンは天文学者オーグラのもとで、ついに水晶のかけらを手に入れるが、そこへなんとガーシムの一団が乱入。命からがら逃げたジェンがたどりついたのは不思議な沼だった。その沼にはジェンと同族のキーラという少女がポッド族にまじって住んでいた。気落ちするジェンを勇気づけるキーラ。ポッド族との楽しいひとときもつかのま、またもやガーシムらが襲ってきた。ジェンとキーラは逃げのびたものの、ポ